

第6学年1組 国語科学習指導案

令和5年10月25日(火) 第5校時

場 所 6年1組教室

児童数 34名

指導者 教諭 本 田 樹 里

- 1 単元名・教材名 表現の工夫をとらえて読み、「新里小・日本画美術館」でよさを伝えよう
「『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の用い方」「日本文化を発信しよう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

第6学年の「読むこと」の学習では、「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えを読み取るために、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることに取り組んだ。ここでは、図表に係のある文を選び、それがどのようなことを説明しているのかを読み取ることはできたが、論の進め方について考え、文章全体を理解し、さらに自分の考えをもつことには難しさを感じている児童が多かった。また、「書くこと」の学習では、「わたしたちにできること」で提案文を書く活動を行った。その際に、現状の詳細を説明すること、自分の意見や考えを文章に表すこと、構成を考えること等につまずきがあり、書く活動をスムーズに進められない児童もいた。そこで、個々の学習状況を把握し、それぞれに適した解決方法を提示したところ、提案文にまとめやすくなり、自分で書き表すことができるようになった。学習活動全般において個人差が大きく、学びを十分に深められる児童がいる一方で、必要とされる力をつけるためには、個別に支援を必要とする児童も多いと感じている。

本校の研究主題に関わる児童の意識調査を実施した。本学級の調査結果は、以下の通りである。

(研究主題に関わる調査)

(令和5年7月・実施人数34名・%)

項目	そう思う	ほとんど そう思う	どちらとも 言えない	ほとんど そう思わない	そう思わない
1あなたは、授業のなかで、できた、わかったと思うことはありますか。	40.6	40.6	9.4	0	9.4
2あなたは、授業のなかで、頑張ってよかったと思うことはありますか。	43.8	46.9	6.3	0	3.1
3あなたは、授業のなかで、自分の意見や考えが、みんなの学習に役立ったと感じたことはありますか。	12.5	18.8	46.9	12.5	9.4
4あなたは、授業のなかで、意見を話してよかったと思うことはありますか。	18.8	34.4	34.4	6.3	6.3
5あなたは、授業のなかで、先生にほめてもらっていますか。	28.1	40.6	21.9	6.3	3.1
6あなたは、授業のなかで、夢中で考えたり、書いたりしているときはありますか。	37.5	43.8	15.6	3.1	0
7あなたは、授業のなかで、次に頑張りたいことをみつけることができますか。	37.5	21.9	21.9	12.5	6.3

「授業の中で、頑張ってよかった」と感じている児童は比較的多く、学習に対する意欲は高まってきている。一方で、「授業の中で、自分の意見や考えが、みんなの学習に役立ったと感じたことがある」と感じている児童は少なく、「どちらとも言えない」と考えている児童が多い。集団の中で学ぶことのよさや楽しさに気づいたり、自己肯定感を高めたりするために、自分の意見のよさを実感できる場面や、意見が学級の友達に受け入れられていることを感じられる場面を意図的に設定し、自己有用感を味わわせる必要がある。

(2) 教材観

本単元は、「『鳥獣戯画』を読む」で筆者が自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているのかを学び、それを生かして日本文化について説明する文章を書くという複合単元となっている。

「『鳥獣戯画』を読む」は、漫画やアニメを取り入れた論の展開や絵の示し方、体言止めや語りかけるような文末表現など、文章のいたるところに筆者の工夫が散りばめられている。そのため、児童は興味をもって読みながら、筆者の工夫とその効果について学ぶことができる。

「『鳥獣戯画』を読む」に続く学習である「日本文化を発信しよう」では「新里小・日本画美術館」を開催し、日本画のよさを伝える解説文を書く活動を設定する。これによって、表現の工夫や論の展開の仕方など、「読むこと」の学習で学んだことを生かしやすくなり、児童が必要感をもちながら学習を進めることができる。また、解説する日本文化について「日本画」に範囲を絞ることで、どの児童にも、それぞれの目標を達成させるための細やかな支援が可能になる。

(3) 指導観

本単元は「読むこと」「書くこと」の複合単元のため、「『鳥獣戯画』を読む」で表現の工夫を捉えて読み、「新里小・日本画美術館」で日本画のよさを伝える解説文を書くという大きなまとまりとして捉え、指導を展開していく。前半の『鳥獣戯画』を読むでは、絵と文章を対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え、論の進め方を捉えて読んでいく。これらを意識して読み進めることで、自分が日本画を紹介する文章を書くときに、表現の工夫として生かせるようにしたい。後半の「新里小・日本画美術館」では、児童が自分に合った作品を選択して解説文を書くことにより、必要感をもちながら楽しみながら主体的に学ぶと共に、友だちと意見や感想を交流したり、一緒に考えたりすることで、自分と友達の感じ方や考え方の共通点や相違点に気づき、学びが深まることを期待したい。「新里小・日本画美術館」を開催するにあたっては、学年室に児童の解説文を展示し、個人面談の際に保護者に公開する。その際、児童からチケットを渡して招待する形をとることで相手を意識し、楽しみながら取り組めるようにしたい。尚、指導事項を明確に進めていくために、本指導案では前半の「読むこと」のみを記載しておく。

【幼保小中を一貫した教育の視点】

第5学年とのつながり 「グラフや表を用いて書こう」	中学校第1学年へのつながり 「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」
------------------------------	---

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題

自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童・生徒の育成
～「わかる・できる」学びと「ともに楽しい」学びの創造～

(2) 両新田中学校校区 目指す子ども像

進んで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

(3) 研究仮説と手立て

【仮説1】

授業の中で表現する場面と交流する場面を設け、工夫・改善すれば、協働的な学びが充実し、児童・生徒が「ともに学ぶことが楽しい」という思いをもつことができ、自己肯定感・自己有用感を育むことができるであろう。

〈手立て①〉自分と比べながらの交流

筆者の表現の工夫を読み取る際に、考えたことやその理由について友だちと交流し、自分との相違点についても考えられるようにする。友だちの考えと自分の考えを比べることで、考えがより深まり、友だちと考えが似ていることから安心感を得たり、違っている考えに触れることで新たな気づきがあったりして、「ともに学ぶ楽しさ」を感じることができると考える。

〈手立て②〉相手のよさを伝える交流

友だちと日本画の解説文を読み合う際に、互いの考え方や感じ方、その表現のよいところ、参考になったり真似したいと思ったりしたことを伝え合うことで、互いに自己肯定感・自己有用感を育むことができると考える。

【仮説2】

授業の中で学んだことを活用する場面を設け、工夫・改善すれば、個別最適な学びが充実し、児童・生徒が「わかった、できた」という思いをもつことができ、自己肯定感・自己有用感を育むことができるであろう。

〈手立て①〉単元で取り上げる言語活動の工夫

「新里小・日本画美術館」を開催し、日本画解説文を書くという言語活動を設定することで、目標が明確になるとともに、学んだ表現や構成を生かしやすくなる。書くことにより、読みの必然性が生じ、児童が必要感をもって楽しみながら主体的に学ぶことができるようにする。また、自分に合った作品を選択して解説文を書くことにより、個別最適な学びが充実し、「わかった、できた」という思いをもつことができ、自己肯定感・自己有用感を育むことができると考える。

〈手立て②〉ICTの活用

タブレット端末をワークシートや意見の交流、「日本画解説文」作成に活用する。ICT機器を活用することで、筆者の表現の工夫を読み取る際や友達と交流する際に、考えをまとめたり伝え合ったりしやすくなる。また、「日本画解説文」作成では、書いたものを推敲、修正する際に作業が容易になり、書くことが得意な児童も苦手な児童も、達成感を味わえる。タブレット端末を活用することで、個別最適な学びが充実し、「わかった、できた」という思いをもつことができ、自己肯定感・自己有用感を育むことができると考える。

4 学力向上プランとの関連

交流を通して、互いのよさに気づき、伝え合うことで、協働的な学びの充実を図る。

5 単元目標

(1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

〈知識及び技能〉(1) ク

(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ウ

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元で取り上げる言語活動

文章から読み取った表現の工夫を「表現の宝箱」にまとめる。(前半「読むこと」)

自分で選んだ日本画の解説文を書く。

(後半「書くこと」)

(関連：言語活動例 Cア)

7 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1) ク	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。C (1) ウ	①粘り強く、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って、考えたことをまとめようとしている。

8 指導と評価の計画（本時5／6）

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点【5か条との関連】・評価
1	○今までの学習を振り返るとともに、単元を見通し、ゴールを確認する。 ○初発の感想を書き、読み合う。 ○学習計画を立てる。	○「新里小・日本画美術館」のまとめ方	○児童が意欲をもって学習を進められるように、日本文化に関するものを題材にした本を学年の廊下に常設する。 【第1条】【第2条】
2	○絵と文章を照らし合わせ、内容を捉える。	○文章と図表の結びつき	○筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目しているのか、本文に線を引かせるなどして読み取らせる。 【第2条】【第3条】 【思考・判断・表現①】 発言内容・ワークシート ・筆者が絵のどの部分を取り上げ、何に着目しているのかを、絵と文章を照らし合わせながら読み取っているかを確認する。
3	○論の進め方を押さえ、筆者の主張を捉える。	○論の進め方	○説明部分とそれをどう評価しているかの部分の関係を読み取らせる。 ○全体の構成を確認し、筆者の主張を捉えさせる。 【第2条】【第3条】 【思考・判断・表現①】 発言内容・ワークシート ・文章の構成を押さえ、筆者の主張を捉えているかを確認する。
4	○筆者の工夫を見つける。	○表現の工夫	○筆者の工夫が見られる部分の表現に線を引かせる。 【第2条】【第3条】 【思考・判断・表現①】 発言内容・ワークシート ・筆者が工夫した部分「高畑さんの文章でいいなと思ったところ」に線を引いているかを確認する。
5 本時	○表現の工夫の効果を考える。 ○自分の考えを交流する。	○表現の工夫の効果 ○交流の仕方	○タブレット端末をワークシートや意見の交流に活用し、より多くの考えを集められるようにする。 【第2条】【第3条】 【主体的に学習に取り組む態度①】 ワークシート・観察 ・文章と絵を結び付けたり論の進め方に着目したりするなど、叙述をもとに「表現の工夫の効果」について考え、友達と語り合い、自分の考えをまとめようとしているかを確認する。
6	○表現の工夫とその効果を全体で確認する。 ○解説文を書く作品（日本画）を選ぶ。	○表現の工夫とその効果 ○作品の選定	○筆者の工夫について論の展開、表現の工夫という観点からまとめ、自分の文章に生かせるようにする。 ○全員が考えた表現の工夫とその効果を「表現の宝箱」としてタブレット上で見られるようにし、自分の解説文を書く際の参考になるようにする。 【第2条】【第3条】 【思考・判断・表現①】 発言内容・ワークシート ・筆者の書き方の工夫（表現の工夫）について話し合い、そのよさ（効果）を理解しているかを確認する。 【知識・理解①】 ・発言内容・ワークシート ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいているかを確認する。

(1) 目標

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 評価規準

- ・粘り強く、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って、考えたことをまとめようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価 ●仮説に対する具体的な手立て ★「草加っ子の学びを支える授業の5か条」との関連	時間
1 単元のめあてを確認する。 2 本時の学習課題を知る。	めあての確認 課題の把握	★第1条「学習の目標（めあて）を明らかにする」	1 1
高畑さんの文章を「いいな。」と思うのは、なぜだろう。			
3 前時の学習を振り返る。	筆者の工夫の確認	□前時に線を引いた「いいなと思う部分」を確認させる。	3
4 筆者の工夫には、どんな効果があるのかを考える。	効果の検証	□効果についてそう感じた理由（いいなと思った理由）を、自分の経験と結びつけて考えさせる。 □座席の近い友達と相談し合ってもよいことを伝える。 □タブレットか紙のどちらを使うかは児童に選択させる。 ★第2条「児童が自分で考える時間を設ける」 ●【仮説2】〈手立て②〉ICTの活用	1 3
（期待される児童の反応） ・アニメのこと → 身近に感じやすい。 ・絵の提示 → 感じたことや考えを絵で確認することができる。 ・説明と評価と解釈の流れで書く → 説明していることがわかりやすい。 ・書き出し「はっけい、このった。～」 → 実況中継みたいで面白い。 書き出しを工夫すると読みたくなる。 ・文末表現「～だ。」 → 言い切っていることで、筆者の思いの強さが伝わる。 ・体言止め → テンポ、リズムがよくなる。 ・語りかける言い方「めくってごらん」 → そう言われるとやってみたくなる。そう思う。 ・比喩表現「まるで～みたい」 → 何かにたとえるとわかりやすい		評価規準 <u>【主体的に学習に取り組む態度①】</u> <u>ワークシート・観察</u> ・文章と絵を結び付けたり論の進め方に着目したりするなど、叙述をもとに「表現の工夫の効果」について考え、友達と語り合い、自分の考えをワークシートにまとめようとしている児童をBとする。 〈「努力を要する」状況（C）への手立て〉 ・タブレットで友達の考えを見て、参考にさせる。	
5 効果について考えを交流する。	意見の交流	★第3条「児童が表現と交流をする場を設ける」 □自由に立ち歩いて話し合いをする時間を設けることで、より多くの友達と交流できるようにする。 □交流することで、線を引いた部分が違っていても、同じ効果でまともられるものがあることに気付かせる。 □タブレット端末を活用し、より多くの考えを集めさせる。 ●【仮説1】〈手立て①〉自分と比べながらの交流 ●【仮説2】〈手立て②〉ICTの活用	2 0
6 本時のまとめをする。	本時の学習内容のまとめ	★第5条「学習のまとめと振り返りの時間を設ける」	3
「いいな。」と思わせる文章は、_____。			
7 振り返りをする。	振り返り	□自分の言葉でまとめさせる。 □筆者の伝えたいことともつなげさせる。 □「今日の国語で何を学んだか」を書かせることで自分の学びを振り返り、次に考えたいことや生かしたいこと、生かせそうなことを意識させる。	4

